

慶應義塾大学

学部学則 別表12（第3条関係）人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

学部	学科	人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的
文学部	人文社会科学科	本塾建学の精神に則り、哲学、史学、文学、図書館・情報学、人間関係学にかかわる理論と応用を研究教授し、文化の創造と社会の発展に資する幅広い教養と深い学識および知的・倫理的・実践的能力を培うことを目的とする。
経済学部	経済学科	経済学部の教育目的は、慶應義塾の建学の精神を踏まえつつ、各界で指導的役割を担う次世代の人材を養成することである。
法学部		法学部は、本塾建学の精神に則り、国際的な視野に立ちつつ新しい社会を創造し未来を先導する人材を育成すべく、法学および政治学の専門分野のみならず幅広い教養について教授研究することを目的とする。
	法律学科	法学部法律学科は、社会現象を法的な視点から捉え、柔軟かつ的確な判断のできる法的思考力を有する人材の育成を目的とする。
	政治学科	法学部政治学科は、現代社会および歴史上の諸問題を政治学的な視点から的確に分析し、創造的かつ総合的に判断する能力を有する人材の育成を目的とする。
商学部	商学科	商学部は、福澤諭吉の実学の精神を「商学」の分野において継承し、社会の変化に対応する形で発展させていくことを教育と研究の基本とする。教育においては、この基本を踏まえ、現実社会の抱える問題を自ら発見し、科学的思考と商学の専門知識を用いて解決案を提示し、実行する能力を養うことで、未来社会に貢献する人材を育てることを目的とする。
医学部	医学科	独立自尊の気風を養い、豊かな人間性と高い倫理観を持ち、患者中心の医療を実践し、世界の医学を先導する人材を育成する。
理工学部		理工学部の研究教授を通して、豊かな創造力、確かな研究・開発能力、幅広い国際教養を修得した先導者を育成することを目的とする。
	機械工学科	エンジニアに求められるセンス これからの社会は、「メカニクス」と「情報」によって支えられると考えている。メカニクスとは、「質量を持つ物体およびエネルギー」を対象とする学問分野の総称で、実在するモノを人間社会に役立てることを追求する工学（エンジニアリング）の原点である。地球環境や人間社会と調和する科学技術の確立が、これからのエンジニアには求められている。 時代を超えたベーシックサイエンスと実践的カリキュラム これからの科学技術は、いままでとは異なった発想が必要である。そのため、将来のエンジニアとして活躍が期待されるみなさんにぜひ身につけてほしいことは、「メカニクスの基本」と「自由な発想」の融合である。機械工学科のカリキュラムでは、メカニクスの本質を学ぶ「力学の基礎」科目と、学生個々の夢とアイデアを実現する手段を学ぶ実技・実習科目を用意し、基礎力・探究心・創造性に溢れる人材の育成を目指している。
	電気情報工学科	電気情報工学は、電気と光を情報処理・伝達的手段やエネルギー源として応用する学問分野である。電気情報工学は日進月歩で発展しており、学際領域へも幅広く展開されている。一方で、技術ブレイクスルーはすでに体系化されている自然科学や工学の知識を駆使して実現されることも少なくない。したがって、電気情報工学分野の技術者および研究者は、最先端技術を習得していることに加えて、その基盤となる基礎学問を十分に理解している必要がある。電気情報工学科では、数学、電磁気学、量子力学、物性工学、電気・電子回路、情報工学、制御工学などの電気情報工学に関係する基礎学問を体系的に習得させた上で、それらの応用であるエレクトロニクス、フォトニクス、インフォマティクスの各分野における専門性を深めさせ、さらに学際領域を含む多様な最先端研究に参画させることで、新たな技術革新を先導できる技術者および研究者の育成を目指している。
	応用化学科	化学の基礎から応用までを網羅する応用化学は、化学の基礎に立脚し、新しい物質をデザインし、創り出し、その物質の機能を制御することを目的とした学問分野である。このため、その研究領域は物質に関わるあらゆる分野、すなわち物理学、生物学、薬学や医学などにも広がっている。応用化学科では、環境・エネルギー・医療など人類の生活水準の向上において問題となるグローバルな課題を、物質を通して解決し、未来の持続型社会の構築に貢献できる科学者・技術者を養成するように努めている。 応用化学科では、高い専門性と広い視野を身に付け、これからの国際社会で活躍できる人材育成のため、化学の共通基礎科目と、その上に4つの研究分野（マテリアルデザイン、環境・分析・プロセス工学、オーガニックサイエンス、バイオサイエンス）に関する専門科目を設けた特色あるカリキュラムを用意している。
	物理情報工学科	物理情報工学科は、物理学と数学を基盤として応用物理学、エレクトロニクスとシステム科学を学び、真理を探究し、新しい価値の創造に挑戦し、社会の発展と持続に寄与する応用力、創造力、総合力を備えた人材を育成することを教育研究上の目的とする。

理工学部	管理工学科	<p>科学技術を社会基盤に変えるためにある技術開発が人間や社会にとって真に必要なか？生産・普及が容易か？資金面で実現可能か？従来、科学者や技術者の思考の枠外にあった、こうした視点や発想が益々重要になっている。科学技術の成果を価値ある社会基盤へと昇華させるためには、情報、資金、ハードウェアといった異質な要素を関連づけるためのマネジメント技法を開発せねばならない。</p> <p>人間社会システムのデザインとマネジメント</p> <p>管理工学とは上述のように技術開発の是非を問い、実行に移すための理論と応用を旨とする学問であり、具体的な研究フィールドは、生産システム、インターフェイス設計、企業体、公的組織体から、交通システム、都市システム、世界経済や環境問題まで、多様な広がりを持つ。当学科は、科学技術全般から人間心理や企業経営、社会動向までを勘案できる総合的な思考力と、問題発見の能力を持った技術者と研究者の養成を目指す。</p>
	数理科学科	<p>数学および統計科学など、数理科学の理論と研究手法を教授することで、抽象的・普遍的に物事を見る力やデータから情報を的確に読み取る力を育み、変化する時代においても確実な判断を下し、幅広く社会に貢献する人材の育成を目的とする。</p>
	物理学科	<p>物理学科では、全ての科学技術の基礎である物理学を学び、論理的に思考できる力と問題解決能力を身につけた、社会に貢献できる人材を育成することを教育研究の目的とする。</p> <p>物理学は、極微の世界から物質、生命、宇宙にいたる幅広いスケールの自然現象を調べ、背後に潜む普遍的な原理や基本法則の解明を使命とする精密科学であると同時に、科学技術が高度に発達した現代社会を根底から支える基盤科学である。従って、物理学の進歩は人類の更なる発展にとって非常に重要である。物理学科は、高度の専門知識を武器に様々な重要問題に柔軟かつ果敢に挑戦する人材がこれからの社会に必要なという理念の下に、精密科学と基盤科学に根ざした知的探求を通じた教育研究を行い、科学技術分野を中心に広く社会に貢献できる優秀な人材を輩出することを目指す。</p>
	化学科	<p>化学科は、自然科学として化学を追究し、分子・原子スケールの基礎的理解に基づいて、物理化学から理論化学、無機化学、有機化学、生命化学まで「幅広くかつ質の高い基礎化学」の教育を通じて、将来にわたって理工学における新たな概念・ユニークな分子や機能物質の創成を実現する国際レベルの研究開発が展開できる科学者・技術者を育成することを目的とする。</p>
	システムデザイン工学科	<p>基盤技術を総合的に活用</p> <p>システムデザイン工学とは、システムとそれを取り巻く環境との調和性を実現する新しい学問分野である。システムとは、宇宙、エネルギー環境、建築、情報、ロボット、バイオなどの様々な分野におけるハードウェア・ソフトウェアならびにインフラストラクチャを意味し、デザインとは、システムの目的を最もよく達成するために工学的アプローチにより解析、設計することである。システムデザイン工学では、個々に独自の発達を遂げてきた要素技術を統合し、技術と技術、技術と人間、技術と社会のより高い調和した状態をデザインすることを目指している。</p> <p>システムデザイン技術の体得</p> <p>システムデザイン工学では、設計の対象とそれを取り巻く環境を含めてシステムとしてとらえ、その問題点を解析・抽出し、新しいシステムの設計・提案を行う。カリキュラムは工学的アプローチの基本である力学的手法と制御情報的手法を柱とし、そこから基礎技術を融合する学問を教授する。</p>
	情報工学科	<p>情報を扱う技術の発展によって、個人は、時間や場所にとらわれずに活動できるようになった。また、情報技術は人だけでなく、ロボットのような知的機械から、日常のありふれた物まで幅広く対象とするようになった。情報を有機的かつ効率よく処理するためのコンピュータ技術、情報を効率的に交換するための通信技術、情報を把握して人間の役に立てるための知能情報処理技術をしっかり身につけ、世界をリードする先端技術者を養成することが情報工学科の使命である。このような、コンピュータ科学、通信工学、知能情報処理を「情報」の観点から融合的に扱う情報工学分野において、情報の獲得、伝達、蓄積、処理、生成、可視化などにわたる学術の発展と人材の養成を通じて、社会に貢献することを目的とする。</p>
	生命情報学科	<p>生命情報学科では、生命科学の新時代を見据えた人材育成を目指す。ヒトゲノムの全容が明らかになり、DNA暗号から作られるRNAやタンパク質、細胞表面の糖鎖などとの相互作用が作り出す様々な生命システムの解明は、新しい産業を興している。またヒトの神経系や認知機能に関する研究は、超高齢化社会に向けての重要な基盤技術を提供する。生命情報学科はこの新しい分野を自らの手で開拓し、幅広い知識と専門性を兼ね備えた、中核的役割を果たす人材を育成する。生命情報学科では、基礎学力として生物系、化学系、物理系、情報系の4つの分野を身につけるために、今までにないカリキュラムを提供する。具体的には、物理・化学に基礎を置いた生体高分子の考え方、コンピュータを利用した生命機能・構造に関する膨大な情報の扱い方などを、実験・実習などで実際に手を動かしながら、「生命現象をシステムとして理解すること」を習得させる。</p>
総合政策学部	総合政策学科	<p>総合政策学部は、多様な問題を解決し社会を先導する「問題解決のプロフェッショナル」を育成することを目標とし、「実践知」を教育理念としている。政治、法律、経済、社会、文化、テクノロジー、心と体などさまざまな領域を取り込みながら、問題を発見し、その解決に向けて学生と教員が一体となって取り組むことを重視する。高い問題意識に基づき、自ら考え、自らの手で未来を拓く力を磨く意欲ある人材を育成することを目的とする。</p>
環境情報学部	環境情報学科	<p>環境情報学部は、地球的規模で問題を発見しそれらの問題を解決することを目標とし、そのために、既存の学問に加え全く新しい学問に挑戦し続けることを研究教育方針としている。情報、生命、心身の健康、環境とエネルギー、デザイン、防災やメディアなどの新しい課題領域に対応するために、自らの力とともに、仲間との協働の力によって、先端の科学とテクノロジーを前提とした未来のグローバル社会を創造する先導者の育成を目的とする。</p>

看護医療学部	看護学科	本塾建学の精神に則り、生命・人間尊重の精神と豊かな人間性を備え、深い知性と倫理観に基づく判断力と実践力を持ち、生涯にわたって研鑽を続け、看護医療を通して人類の福祉に貢献する人材の育成を目的とする。この理念に基づく人材養成にあっては、次のような資質を涵養することを目標とする。(1)基本倫理としての生命・人間尊重の精神を身につけ、人間的に調和の取れた人格を備え、社会人として成長しうる素地を培う。(2)看護の知識・技術を駆使して新しい看護活動の場を創造し、保健・医療・福祉の発展に寄与する基礎能力を養う。(3)看護学の実践・研究および他の学問分野との相互交流により実学としての看護医療の発展を先導する人材を育成する。
薬学部		本塾建学の精神に則り、薬学の理論と応用とを研究教授し、医療・創薬に関わる分野で求められる学識と能力を培うことを目的とする。
	薬学科	薬学科は、科学の基盤をもち、医療人としての自覚のもと、高い臨床能力を発揮できる、人に優しい薬剤師の育成を目的とする。
	薬科学科	薬科学科は、創薬、臨床開発、環境・生命科学などの幅広い分野における科学者の育成を目的とする。